

シ ラ バ ス
令和3年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	技術・家庭(技術分野)	学年	2	年	時間数	70/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 技術分野	出版社名	開隆堂
------	------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	(B 生物育成の技術)	①生活や社会を支える生物育成の技術		◎	○	授 業 の 概 要 「B 生物育成の技術」では、作物や動物、水産生物などの基本的な生物育成の技術について学んだ後、簡単な作物の栽培に取り組みます。 「C エネルギー変換の技術」では、まず電気エネルギーの利用方法や保守点検について理解するとともに、機械部品による運動エネルギーの伝達についても学習します。その後、簡単な電気回路について学習し、機械部品や電子部品の組み立てを含む製品の製作を行います。	
		1-1 生活や社会と生物育成の技術	②身の回りにおける生物育成の技術		◎	○		
		1-2 さまざまな生物育成の技術	①作物の栽培技術 ②動物の飼育技術 ③水産生物の栽培技術 ④森林の育成技術	◎		○		
	5	中間考査(5/18～5/19)			◎	◎		○
		2 生物育成の技術による問題解決	①問題解決の流れ ②生物育成計画の立て方(実習)		◎	○		
	6				○	◎		○
		期末考査3年(6/28～7/2)、1・2年(6/29～7/2)			◎	◎		○
7	3 これからの生物育成の技術	①生物育成の技術の学習をふり返ろう ②生物育成の技術と私たちの未来		◎		○		
	夏季休業日(7/21～8/24)							
二 学 期	8	(C エネルギー変換の技術)	①生活や社会を支えるエネルギー変換の技術		◎	○	学 習 の 到 達 目 標 ・生活や社会で利用されている生物育成の技術について基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることができる。 ・生物育成の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めることができる。 ・生物育成の技術と環境に関わる問題を見つけて課題を設定し、適切かつ誠実に生物育成の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。 ・生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術について基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることができる。 ・エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めることができる。 ・生活や社会の中からエネルギー変換の技術と安心・安全に関わる問題を見つけて課題を設定し解決する力、安全な生活や社会の構築に向けて適切かつ誠実にエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。	
		1-1 生活や社会とエネルギー変換の技術	②身の回りにおけるエネルギー変換の技術		◎	○		
	9	1-2 エネルギー資源の利用	①エネルギーの利用 ②燃料を利用した技術 ③発電と送電のしくみ ④エネルギー変換効率と省エネルギー		◎			○
		1-3 電気の利用	①電気エネルギーの特徴		◎	◎		○
	10	中間考査(10/5～10/6)			◎	◎		○
			②光や熱に変換するしくみ ③動力や音・信号に変換するしくみ ④電気回路と回路図 ⑤電気機器の安全な利用 ⑥電気機器の保守点検		◎			○
	11	1-4 運動の利用	①力の伝達 ②動きを変化させるしくみ ③力や運動を保存するしくみ ④部品の固定と共通部品		◎			○
		期末考査3年(11/29～12/3)、1・2年(11/30～12/3)			◎	◎		○
	12	2 エネルギー変換の技術による問題解決	①問題解決の流れ(実習) ⑤機械の保守点検		◎	◎		○
		冬季休業日(12/21～1/6)						
	三 学 期	1			◎	◎		○
				◎	◎	○		
				◎	◎	○		
2					◎	◎	○	
		学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査1・2年(2/22～2/28)			◎	◎	○	
3	3 これからのエネルギー変換の技術	①エネルギー変換の技術の学習をふり返ろう ②エネルギー変換の技術と私たちの未来		◎		○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	技術・家庭(技術分野)	学年	3	年	時間数	35/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 技術分野	出版社名	開隆堂
------	------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	(D 情報の技術)	①生活や社会を支える情報の技術	◎	◎	○	授業の概要 「D 情報の技術」では、生活や社会を支える情報の技術について学習します。具体的には、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツ(例えばチャットのような機能)のプログラミングや、センサーで計測した情報をもとにアクチュエータを制御するプログラミングを行います。また、情報モラルの必要性や情報セキュリティについての基礎知識も学習します。
		1-1 生活や社会と情報の技術	②身の回りにある情報の技術	◎	◎	○	
		1-2 情報とコンピュータ	①コンピュータの構成 ②コンピュータの機能と装置	◎	◎	○	
			③コンピュータを使って機器を自動で動かすしくみ	◎	◎	○	
	5	中間考査(5/18~5/19)	④コンピュータによる処理のしくみ	◎	◎	○	
			⑤プログラムの構造と表現	◎	◎	○	
	6	1-3 情報の表現と伝達	⑥情報のデジタル化 ⑦デジタル情報の特徴	◎	◎	○	
		①使いやすさを工夫した情報の表現	◎	◎	○		
二学期	7	1-4 情報セキュリティと情報モラル	②メディアを利用した情報の表現	◎	◎	○	学習の到達目標 ・情報の技術の見方・考え方を働かせ、利便性や安全性を高める双方向性のあるコンテンツや身近な不便さを解消する計測・制御システムのプログラムを設計・制作する実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることができる。 ・情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに、生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力を身に付けることができる。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。
			③情報通信ネットワークのしくみ	◎	◎	○	
	7	期末考査3年(6/28~7/2)、1・2年(6/29~7/2)	④Webのしくみと情報の表現	◎	◎	○	
	8	2-1 双方向性のあるコンテンツによる問題解決	①情報セキュリティ	◎	◎	○	
			②情報モラル	◎	◎	○	
	9	2-1 双方向性のあるコンテンツによる問題解決	③知的財産の保護と活用	◎	◎	○	
			※ 双方向性のあるコンテンツのプログラミング実習	◎	◎	○	
10	中間考査(10/5~10/6)	◎	◎	○	評価の観点 知識・技能 生活や社会で利用されている情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、情報モラルの必要性及び、情報の技術と安全な生活や社会、環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。		
		◎	◎	○			
11	2-2 計測・制御による問題解決	◎	◎	○	思考・判断・表現 情報通信ネットワークを利用したアプリや計測・制御の技術によって解決できる問題を見いだして、必要な機能を持つコンテンツや計測・制御システムに関する課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築を目指して情報の技術を評価し、適切に選択、管理・運用、改良、応用する力を身に付けている。		
		◎	◎	○			
12	2-2 計測・制御による問題解決	◎	◎	○	主体的に学習に取り組む態度 よりよい生活の実現や持続可能な社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとしている。		
		◎	◎	○			
冬季	冬季休業日(12/21~1/6)	◎	◎	○	評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「製作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。		
		◎	◎	○			
三学期	1	◎	◎	○	備考 ◎ ◎ ◎		
		◎	◎	○			
	2	◎	◎	○			
3	3 これからの情報の技術	◎	◎	○	◎ ◎ ◎		
		◎	◎	○			
		①情報の技術の学習をふり返ろう	◎	◎	○		
		②情報の技術と私たちの未来	◎	◎	○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	1	年	時間数	70/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	出版社名	開隆堂
------	------------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	家庭分野ガイダンス	家族・家庭と地域の生活 生活の土台 自立と共生	○			授 業 の 概 要 ガイダンスでは、今後3年間の家庭分野の授業で学習する内容について説明します。 衣生活では、衣服の役割や着用の方法を学び、日常着の手入れや補修の実習を行います。住まいのはたらきを知り、安全で快適な住まいについて学習します。 学 習 の 到 達 目 標 ・衣服と社会生活とのかかわりに関心を持ち、TPOに応じた衣服を着用することができる。 ・衣服材料に応じた日常着の手入れや補修、既製品の表示について理解することができる。 ・衣服に付く汚れの性質を理解して、正しい手入れや保管の仕方を理解することができる。 ・住居の基本的な機能を学び、家族の安全を考えた室内環境の整え方を考え、快適な住まい方を工夫することができる。
		A 家族・家庭生活	1 今の自分とこれまで 2 わたしの生活と家族・家庭	○			
		1 自分の成長と家族・家庭生活	3 家庭を支える社会 4 中学生にとっての家族	◎		○	
		B 衣食住の生活	1 衣服で伝わるメッセージ 2 自分らしくコーディネート	◎		○	
	5	1 目的に応じた衣服の選択	1 衣服で伝わるメッセージ 2 自分らしくコーディネート	○	◎		
		中間考査(5/18～5/19)		○			
	6	3 生活を豊かにするものの製作	製作の基礎・基本	◎		○	
		防災リュックの製作	・ミシン縫いの練習 ・しるしをつける ・ポケットをつける	◎		○	
				◎		○	
		期末考査3年(6/28～7/2)、1・2年(6/29～7/2)		◎	○		
	7		・本体脇縫い ・底マチ	◎		○	
				◎		○	
夏季		夏季休業日(7/21～8/24)					
二 学 期	8		・ふた	◎		○	
			・ひもつけ	◎		○	
	9		・仕上げ	◎		○	
				◎		○	
		中間考査(10/5～10/6)		○			
	10	2 日常着の手入れと保管	1 まかせて衣服の手入れ 2 布の繊維に応じた手入れ	○	◎		
				○	◎		
	11	3 めざそう洗濯名人	3 めざそう洗濯名人	○	◎		
		4 補修や収納・保管	4 補修や収納・保管	○		◎	
		期末考査3年(11/29～12/3)、1・2年(11/30～12/3)		◎	○		
12	4 持続可能な衣生活	持続可能な衣生活を目指して	○	◎	○		
			○		◎		
冬季		冬季休業日(12/21～1/6)					
三 学 期	1	B 衣食住の生活	1 住まいのはたらき	○		◎	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		1 住まいのはたらきとこちよさ	2 住まいの空間	○	◎		
	2	2 安全な住まいで安心な暮らし	1 家庭内事故への備え	○	◎		
			2 災害への備え	◎		○	
		学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査1・2年(2/22～2/28)		◎			
	3	3 持続可能な住生活	持続可能な住生活を目指して	○		◎	
			◎		○	備 考	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	2	年	時間数	70/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 家庭分野	出版社名	開隆堂
------	------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一学期	4	ガイダンス 食生活と自立 1 健康と食生活	1 食事について考える	○			授業の概要 ガイダンスで、2年生で学ぶ内容について説明します。安全で計画的な調理実習が行えるようにします。自分の買った物を振り返り、価格の違いを考えたり、販売方法の特徴や契約解除の方法を学習したりします。	
			2 生活のリズムと食事	○	◎			
			3 栄養素のはたらきと食品 食品と栄養素の関係	◎		○		
			4 中学生に必要な栄養	○		◎		
			5 食事の計画	○	◎			
	5	中間考査(5/18～5/19)			○	◎		
	6	2 食品の選択と保存	1 食品が口に入るまで	○	◎		学習の到達目標 ・食品の調理上の性質を理解し、特性を生かした調理の計画を立てることができる。 ・家庭生活と消費について、また、環境に配慮した消費生活について関心を持って学習に取り組み、より良い消費生活を実践することができる。	
		2 生鮮食品の選び方	○		◎			
		3 いろいろな加工食品	○		◎			
		4 加工食品の表示	◎	○				
		5 加工食品の選び方	○	◎				
	7	期末考査3年(6/28～7/2)、1・2年(6/29～7/2)		◎	○			
		6 保存の仕方を考える	○		◎			
二学期	8	3 調理をしよう	1 調理の計画	○		◎	評価の観点 知識・技能 生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	
			2 調理の基本	◎		○		
			3 肉の調理	◎		○		
			・調理実習	◎		○		
	9		4 魚の調理	◎		○	思考・判断・表現 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		・調理実習	◎		○			
		中間考査(10/5～10/6)		○				
		5 野菜の調理	◎		○			
	10		・調理実習	◎		○	主体的に学習に取り組む態度 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
	11	4 地域の食材と食文化	1 地域の食材と郷土料理		◎	○		
		2 受け継がれる食文化		○	◎			
			3 地域と世界へ目を向けて	○	◎			
		学習のまとめ			○	◎		
		期末考査3年(11/29～12/3)、1・2年(11/30～12/3)		◎	○			
三学期	12	D 身近な消費生活と環境 1 家庭生活と消費	1 消費生活のしくみ	○		◎	評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。	
					◎	○		
					◎	○		
	1	2 商品の選択と購入	1 商品購入のプロセス	◎	○		備考	
			2 生活情報の活用	○		◎		
			3 購入方法と支払い方法	◎				
			3 よりよい消費生活のために	1 契約と消費生活のトラブル	○	◎		
			2 消費者を支えるしくみ	◎		○		
			3 消費者の権利と責任	◎				
	2	4 環境に配慮した消費生活	1 自ら取り組むエコ生活 2 地域や社会での協力	○		◎		
		学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査1・2年(2/22～2/28)		◎	○			
3		3 持続可能な社会 環境問題への挑戦			○	○		
					◎	○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	3	年	時間数	35/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 家庭分野	出版社名	開隆堂
------	------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	D 身近な消費生活と環境	ガイダンス	○	○		授業の概要 ガイダンスで、3年生で学ぶ内容について説明します。 身近な消費生活と環境に関する学習を通して、消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について考えていきます。 住居の機能と住まい方に関する学習を通して、自分や家族の住空間に関心を持ち、安全で快適な住まい方について考えていきます。 幼児の発達と生活の特徴に関する学習を通して、家族の役割や幼児にとっての遊びの意義、幼児との関わり方について考えていきます。
		2 商品の選択と購入	1 商品購入のプロセス 2 生活情報の活用 3 購入方法と支払い方法	◎	○	◎	
		3 よりよい消費生活のために	1 契約と消費生活のトラブル 2 消費者を支えるしくみ	○	◎	○	
		中間考査(5/18～5/19)	3 消費者の権利と責任	○			
	5	4 環境に配慮した消費生活	1 自ら取り組むエコ生活 2 地域や社会での協力	○		◎	学習の到達目標 ・住まいのはたらきを知り、安全で快適な住まい方について考えることができる。 ・環境に配慮した消費生活について関心をもって学習に取り組み、より良い消費生活を実践することができる。 ・幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫することができる。
		期末考査3年(6/28～7/2)、1・2年(6/29～7/2)	3 持続可能な社会 環境問題への挑戦 生活の課題と実践	◎	○	○	
	夏季	夏季休業日(7/21～8/24)					
8		C 衣生活・住生活と自立	1 災害への備え	○	◎		
二学期	9	3 住まいと地域	2 災害時の住まいと暮らし 3 地域に配慮した住まい方	○	◎		評価の観点 知識・技能 生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
		中間考査(10/5～10/6)		○		◎	
		10	1 住まいのはたらき	1 住まいの様々な役割 2 共に住もう	◎	○	
	11	2 健康で安全な住まい	1 家族の健康と室内環境 2 家庭内の安全	◎	○	◎	
	12	期末考査3年(11/29～12/3)、1・2年(11/30～12/3)		◎			主体的に学習に取り組む態度 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
		A 家族・家庭と子どもの成長 2 幼児の生活と遊び	これからの住生活と環境 1 わたしの成長をたどる	○	◎	○	
冬季	冬季休業日(12/21～1/6)						
三学期	1	2 幼児の体の発達 3 幼児の心の発達 4 幼児の心身の発達と家族の役割 5 子どもの成長と地域 6 幼児の遊びと発達 7 幼児の遊びを支える		◎	◎		評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。
		学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査1・2年(2/22～2/28)		◎			
		2		○		◎	
	3	4 これからのわたしと家族	1 中学生と家族とのかかわり 2 これからのわたしと家族との関係	◎		◎	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年	4 年	類型	共通	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	-----	----	----	-----	---	----

教科書名	家庭基礎 自立・共生・創造	出版社名	東京書籍
------	---------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	思	技	知		
一 学 期	4	第1章 自分らしい人生をつくる	オリエンテーション	○				授業の概要 家庭基礎では、生活面での知識や技術を身に付けて「自立」し、異なる世代の人々と「共生」する意識を持ち、自分らしい「生活」を創造していく力を養います。 また「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を通して、家庭や地域の生活課題を主体的に解決できる力を養います。	
		1 生涯発達の視点 2 青年期の課題	1 自分について考える 2 自立について考える		◎				
		4 人生をつくる	1 人生90年時代を生きる 2 一人で暮らす 3 パートと生きる 4 子どもと暮らす・親を支える 5 多様なライフスタイル	○	○				
		5 家族・家庭を見つめる	1 家族・家庭をどう捉えるか 2 社会の中の家族・家庭 3 家族と法律		○		◎		
	5	6 これからの家庭生活と社会	1 男女で担う家庭生活 2 家庭生活と地域・福祉		◎				
		中間考査(5/18～5/21)			○		◎		
	6	第2章 子どもと共に育つ	1 子どもの育つ力 2 子どもの能力	◎					
		1 子どもの育つ力を知る	3 身体の発達 4 心の発達 5 遊びの発達	○			○		
		2 親として共に育つ	1 子どもの発達と保育 2 子どもの生活と保育 3 親として育つ		○		◎		
		4 これからの保育	1 現代の子育て環境 妊婦疑似体験 DVD保育実習の基礎	◎			○		
	7	期末考査(6/28～7/2)				○	◎		学習の到達目標 一人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に身に付ける。 学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決することができる。 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。 ホームプロジェクトの実践により、知識や技術を自分の生活に活かし、さらに意思決定能力や問題解決能力を身に付ける。 学校家庭クラブ活動の実践を通して、家庭と社会との関わりについて理解し、共に生きる社会の一員としての自覚を持つことができる。
		第3章 高齢社会を生きる 1 高齢者を理解する	1 人の一生と高齢期 2 高齢社会の現状と課題 高齢者疑似体験	◎			○		
2 高齢者の心身の特徴		1 老化と成熟 2 多様な高齢者	◎	○					
ホームプロジェクトの計画		衣・食・住・環境・経済生活からの見直し ホームプロジェクト計画		○		◎			
夏季	夏季休業日(7/21～8/24)	ホームプロジェクト実施							
二 学 期	8	ホームプロジェクト発表		○	○	◎	評価の観点 関心・意欲・態度 家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組みようとするとともに、実践的な態度を身に付けている。		
		第5章 食生活をつくる 1 食生活について考える	1 青年期の食生活の課題 2 食べるとは 3 食生活の課題 4 食生活の変化 3 炭水化物 4 脂質	◎				○	
		2 食事と栄養・食品	5 たんぱく質 6 無機質 7 ビタミン		○			◎	
		3 食生活の安全と衛生	1 食品の選択と保存 2 食生活の衛生と安全		○			◎	
	9	中間考査5年(9/28～10/1)				○			◎
		中間考査4・6年(10/5～10/8)				○			◎
		調理実習計画1と準備(和食)		◎				○	
		調理実習1		○				◎	
	10	調理実習計画2と準備(洋食)		◎				○	
		調理実習2		○				◎	
		調理実習計画3と準備(中国料理)		◎				○	
		調理実習3		○				◎	
11	期末考査(11/29～12/3)			○			◎		
	第6章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える	3 被服の役割 4 保健衛生的機能 5 社会的機能	○				◎		
	2 被服を入手する 3 被服を管理する	2 被服と表示 3 被服材料の性能			○		◎		
	1 被服の手入れ	1 被服の手入れ			○		◎		
12	冬季休業日(12/21～1/6)								
	4 これからの衣生活	3 衣生活と環境		○			◎		
	5 布を用いた生活の知恵	被服製作実習		○			◎		
	第8章 経済生活を営む 1 職業生活を設計する	1 経済的に自立する		◎			○		
1	4 現代の消費社会	1 契約と契約トラブル 2 消費者をめぐる問題	◎	○					
	5 消費者の権利と責任	金融経済消費者セミナー DVDはじめての金融ガイド	○				◎		
	7 第7章 住生活をつくる 1 住生活について考える	1 住生活の機能と変化 2 平面図を理解する		○			◎		
	学年末考査4・5年(2/21～2/28)			○			◎		
3	第9章 生活を設計する 生活を見通す	1 生活設計とは 2 自立し共に生きるために わたしのライフデザイン 人生すごろく	○	◎					
			◎	○					

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	学年	6年	類型	グローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	-----------	----	----	----	----------	-----	---	----

教科書名	子どもの発達と保育 新訂版	出版社名	実教出版
------	---------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	思	技	知		
一学期	4	1章 子どもの発達の特性	1節 発達と乳幼児期の意義	1 子どもの発達	◎		○	授業の概要 子どもの発達と保育では、「子どもの発達の特性」、「子どもの発達の過程」、「子どもの生活」、「子どもの保育」、「子どもの福祉」について学習します。教科書や資料プリントを用いて、乳幼児期が人間発達の基礎を培う時期であることを踏まえ、誕生から就学までの長期的視野をもち、実際に子どもと触れ合う学習活動を通して、子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と実践的な態度を身に付けます。また、保育技術検定を受検し、子どもと触れ合う技術を高めめます。	
			2節 発達と保育環境	1 発達と保育環境のかかわり 2 保育環境を整える		◎			○
			3節 児童観と発達観	1 児童観・発達観とは 2 こんにちの児童観・発達観					◎
	5	中間考査(5/18～5/21)			○		◎		
	6	2章 子どもの発達の過程	1節 子どもの発育 幼児とのふれあい	1 胎児の発育・発達	○		◎		学習の到達目標 ・子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を身に付けることができる。 ・子どもの発達や子育てに関心を持ち、関わろうとする意欲や実際に関わることができる能力と実践的な態度を身に付けることができる。 ・乳幼児の生活の特徴と適切な養護の在り方、生活習慣の形成、生活環境の整備、健康管理と事故防止などについて学び、乳幼児の発育発達を促すための望ましい生活について理解することができる。 ・子どもの発達を促すための保育の必要性と意義を理解し、保育の目標に応じた基本的な保育技術を身に付けることができる。 ・児童福祉の理念や関係法規と制度について学び、近年の子育て支援の考え方や施策について理解することができる。
				2 乳幼児の身体的特徴 3 乳幼児の生理的特徴	○		◎		
	7	期末考査(6/28～7/2)			○	◎			
7	2節 子どもの精神発達 3節 人間関係の発達 施設での交流・保育実習				◎	○			
				◎	○				
夏季休業日(7/21～8/24)									
二学期	8	4章 子どもの保育	1節 保育の意義と重要性	3節 保育の方法	◎			評価の観点 関心・意欲・態度 子どもについての関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの発達や子育て支援に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。 思考・判断・表現 子どもの発達をふまえ、現状について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。 技能 保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。 知識・理解 子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。	
			2節 家庭保育と集団保育			○	◎		
	9	3章 子どもの生活	1節 生活と養護	1 生活と健康 2 栄養と食事 3 食習慣の形成			◎		
			4 衣生活と育児用品			○	◎		
	10	中間考査5年(9/28～10/1) 中間考査4・6年(10/5～10/8)							
	11	2節 子どもの遊び 3節 生活習慣の形成	1 生活と遊び 2 遊びの援助	1 生活習慣の意義 2 基本的な生活習慣 3 社会的な生活習慣		◎			
			4節 健康管理と事故防止	1 日常の健康管理 2 病気の看病と予防		◎			○
12	期末考査(11/29～12/3)			○					
冬季休業日(12/21～1/6)									
三学期	1	5章 子どもの福祉	1節 子どもの福祉		◎		○	評価方法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
			2節 子育て支援				○		○
	学習のまとめ 家庭学習			○		○	○		
	○		○		○		○		
2	学年末考査4・5年(2/21～2/28)			○		○	備考		
3				○		○			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	家庭	科目	ファッション造形基礎	学年	6年	類型	グローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------------	----	----	----	----------	-----	---	----

教科書名	ファッション造形基礎	出版社名	実教出版
------	------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一学期	4	1章 衣服の構成	1 人のからだと衣服 2 衣服製作のための人体計測 1 立体構成衣服 2 平面構成衣服	○				授業の概要 ファッション造形基礎は、被服の構成を理解し、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を養います。 また、ファッション造形の基礎的な能力と態度を身に付けます。
		1節 人体と衣服		◎				
		2節 立体構成衣服と平面構成衣服			◎		○	
		3章 洋服の製作		○		◎		
	5	1節 製作の基礎	1 洋服とは 2 製作のための道具	○		◎	○	
		中間考査(5/18～5/21)					○	
			実習①基礎縫いを利用した巾着袋の製作	○		◎		
6		実習②巾着袋の装飾	○		◎			
			○		◎			
			○		◎			
		期末考査(6/28～7/2)			○	◎	学習の到達目標 ・被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得することができる。 ・ファッション造形の基礎的な能力と態度を身に付ける。	
7	3節 着装	1 洋服の着装 2 着装の工夫-コーディネート-	◎			○		
			○	◎				
			○					
夏季		夏季休業日(7/21～8/24)						
二学期	8	1節 製作の基礎	3 採寸 4 パターン(型紙)の種類と利用 実習③洋服の製作(ブラウス・シャツの製作)				○	
		2節 製作例		○		◎		
	9			○		◎		
		中間考査5年(9/28～10/1)				◎	○	
		中間考査4・6年(10/5～10/8)				○	○	
	10	4章 和服の製作	1 和服とは 2 和服の素材 3 製作のための用具と基本的な技法 2 簡単な和服の製作	○				思考・判断・表現 衣服のデザインや材料の選択に関し、個人の創意・工夫を表現することができる。また製作過程や作品の着用において、必要に応じて個人の創意・工夫をいかし表現することができる。
		1節 製作の基礎		◎			○	
	11	2節 製作例		○		◎	○	技能 製作題材を踏まえた技法を用い、計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができる技能を身に付けている。
				○		◎		
			期末考査(11/29～12/3)				◎	知識・理解 衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解し、衣服を創造的に製作するために必要な知識を身に付けている。
12	3節 着装	1 和服の着用 2 和服の種類と用途	○			○		
			○			○		
冬季		冬季休業日(12/21～1/6)						
三学期	1	2章 衣服の素材	1 繊維 2 糸 3 布 4 衣服素材の改質・加工 5 これからの衣服素材 1 衣服材料の性能 2 衣服材料の選択 家庭学習	○			○	評価方法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート)」、「作品」により評価します。また学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		1節 衣服素材の種類		○			○	
		2節 衣服素材の性能と選択		○			○	
	2			○			○	備考
		学年末考査4・5年(2/21～2/28)		○			○	
3			○			○		

令和3年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	家庭	科目	フードデザイン	学年	6 年	類型	グローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	---------	----	-----	----	----------	-----	---	----

教科書名	フードデザイン 新訂版	出版社名	実教出版
------	-------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一学期	4	1章 食生活と健康	1節 食の意義と役割	○				<p>授業の概要</p> <p>フードデザインでは、「健康と食生活」、「フードデザインの構成要素」、「フードデザイン実習」、「食育と食育推進活動」について学習します。教科書や資料プリントを用いて、栄養、食品、献立、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得することができるように、授業や実習を進めます。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・栄養の摂取状態について学び、食の外部化や食料自給率の低下などの諸問題について正しい知識を身に付け、自分の考えを確立することができる。 ・各栄養素の種類と栄養的な意義、その栄養素を含む食品について学び、各栄養素の代謝経路と役割を理解することができる。 ・年齢や性別、運動量などによって、必要とされる栄養素に違いがあることを学び、ライフステージごとの特徴を理解することができる。 ・テーブルコーディネートの基本をふまえ、食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や環境作りの技術を身に付けることができる。 ・日本料理、西洋料理、および中国料理の基本的な献立作成ができるようになり、各料理にあった盛り付けや、目的にあった食卓を整えることができる。</p> <p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>健康と食生活についての学習を通して、家庭や地域において食育の推進に役立てようとする能力と態度を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>食生活を総合的に計画・実践できるようにするために、栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を用いて、日常の食卓の工夫をはじめ、創意工夫し表現するための能力を身に付けている。</p> <p>技能</p> <p>実習を通して、食事のテーマに応じた献立作成、食材の選択と調理、テーブルコーディネートとサービスについての技術を身に付けている。</p> <p>知識・理解</p> <p>栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身に付けている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>
		4章 調理の基本	1節 調理とおいしさ 2節 調理操作	○	◎		○	
		3章 食品の特徴・表示・安全	1節 食品の特徴と性質 「調理実習」	○		◎	○	
		中間考査(5/18～5/21)					○	
	5		2節 食品の生産と流通 「調理実習」	◎			○	
			3節 食品の選択と表示 「調理実習」		○	◎		
			「調理実習」		○	◎		
		期末考査(6/28～7/2)				○	◎	
	6		4節 食品の衛生と安全 「調理実習」				◎	
			1節 食育の意義と推進活動 ホームプロジェクト			◎	○	
夏季休業日(7/21～8/24)								
8		5章 料理様式とテーブルコーディネート	ホームプロジェクト発表 1節 料理様式と献立 「調理実習」	◎			○	
二学期	9		2節 テーブルコーディネート	◎				
			3 和風のテーブルコーディネート 「調理実習」			◎	○	
		中間考査5年(9/28～10/1)					◎	
		中間考査4・6年(10/5～10/8)					◎	
	10		4 洋風のテーブルコーディネート 「調理実習」			◎	○	
			5 中国風のテーブルコーディネート 「調理実習」			◎	○	
			クリスマス料理 「調理実習」	○		◎		
			「調理実習」	○	◎			
	11	期末考査(11/29～12/3)					◎	
			正月料理 「調理実習」			◎	○	
		「調理実習」			◎	○		
冬季休業日(12/21～1/6)								
三学期	1	6章 フードデザイン実習	1節 献立作成 1日常食の献立を考える際の留意点 2日常食の献立作成 「調理実習」	○		◎		
			3 応用食・行事食 学習のまとめ 家庭学習		○		○	
					○		○	
					○		○	
2	学年末考査4・5年(2/21～2/28)					○	○	
						○	○	
						○	○	
3								